

福島県PTA連合会会報
第43号_H09.02.24



今こそ『生きる力』を

平成八年七月の第十五期中央教育審議会の中間報告の副題として「子どもに『生きる力』と『ゆとり』を」が登場してから、「生きる力」は教育界の流行語になってしまった。教育雑誌は勿論、数多くの新聞、雑誌そしてテレビまで「生きる力」一色である。

では「生きる力」は何か。というところがまた難しい。森隆夫お茶の水女子大学教授は「一言で言えば『知育・徳育・体育』を身につけた生き方に帰着するもの」と言う。

いろいろな見方、考え方もあるであろうがこの「生きる力」、子どもにだけ身につけさせればよいものであるか。むしろ私たちPTA会員の一人一人が率先して身につけなければならぬものではないだろうか。「親の背を見て、子は育つ」を教育の原点と考えて、今こそPTA会員全員で実践していきたいものと考えよう。

さて、多くの会員に支えられてきたPTA活動も残すところわずかとなった。今年度は県下PTA全員で取り組んできた「テレクラ規制条例」が二月一日から施行されるなど大きな成果を見た。郡山・熱海で開かれた県大会を始め、各地区、各単Pでの活発な意見交換で大きな成果を上げることがもできた。

しかし反面、いじめ問題は依然として残り、登校拒否児童生徒は増加の一途をたどっている。性非行や薬物汚染の低年齢化も話題になっている。このような現状に鑑み文部省でも「通学区域制度の弾力的運用」の例に見られるように「教育制度の革新と豊かな人間性の育成」を含め五項目を掲げ、「教育改革プログラム」として推進している。

多くの課題を残しつつ、平成九年度はもうすぐ始まるうとしていく。今こそ、会員一人一人が『生きる力』を身につけ、課題を明確にしながら解決のために立ち上がる年としたいものである。

和連P
ふくしま

第43号

福島県PTA連合会
福島市黒岩字田部屋53-5
福島県青少年会館内
電話 (0245)45-5982
発行人 山岸 清
印刷 泉印 所
電話 57-1071

戦後の日本は、経済復興を端緒とし、「所得倍増計画」や「期待される人間像」といった経済重点主義を教育面にもおしすすめ、現在に至っております。その結果、日本は有為の経済大国となりました。

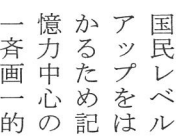
経済面で世界のトップクラスになった日本は、他方面でも世界のリーダーとなるべき時期に『今』あるのではないかと思います。

しかし、そのような変化の激しい時代には、子どもたちに最も身近で影響力の大きい従来の教育を受けた親である私たち自身の意識改革と教育が必要であると思えます。

特に、今日のような変化の激しい時代にあつてはよほどしっかりした倫理観がないと流されてしまいます。このことを充分に認識し、私たちはPTAの諸行事を通して自らの視野を広くし、感性を磨き、親としての自覚を高め、その器を大きくしていかなければならないと思えます。

21世紀への展望と これからのPTA活動

福島県PTA連合会副会長 早川 敬介



な偏差値教育が長期に続けられ、与えられた指示は有能にこなせるが自ら仕事を創造することのできない、俗に言う「指示待ち人間」を数多くつくりだし、自ら考えて行動できるリーダーとなるべき人

達南地区

会長 新村 章

《飯野町立飯野中学校PTA会長》

達南地区は、行政的には、伊達郡の一員として、教育行政的には、福島市の一員として区分され、PTAとしては、川俣町、飯野町二町の中学校三校、小学校十校により構成されています。その為、伊達の風と、福島の風が、交じり合い達南独特の味を醸し出しているようです。

今年度の県大会郡山大会では、県下より二千五百名以上の会員が集まり、PTA活動について活発な意見交換がありました。

だより

各分科会での発表や質疑応答では、私たちの活動に多くの示唆を与えるなど大きな成果を見ることができました。

達南地区では、行政的には、伊達郡の一員として、教育行政的には、福島市の一員として区分され、PTAとしては、川俣町、飯野町二町の中学校三校、小学校十校により構成されています。その為、伊達の風と、福島の風が、交じり合い達南独特の味を醸し出しているようです。

連合PTAとしての主な事業は、

- (一) 総会・懇親会の開催
- (二) 研究大会の開催
- (三) 球技大会の開催
- (四) 理事会の実施

等の研修及び交流活動を進めています。

昨年の夏の研究大会では、県連P第一分科会のテーマ『PTAの組織運営』について、三校「会員の参加意識の変化・時代に併せた組織形態の変化と考察・特長ある事業の報告」などを発表いただき、参加者を交えて討議されました。

特に、PTAへの会員の意識については、会員の自由になる時間の少なさ、生活に追われている実態を踏まえ、PTA活動の質と内容の充実が求められている点が指摘されていました。指摘された内容においては、各单位PTAにおいて具体的な事業、活動に反映される事を課題として提起いたしました。

どちらの連Pでも、実施されている事業の実施に止まっていますが、達南地区の連Pではありますが、今後においては、より具体的課題を検討するため、小学校・中学校別

の部会的な活動を実施して行く方 向も考慮したく思います。

岩瀬地区

会長 石崎 孝一

《須賀川市立第二小学校PTA会長》



岩瀬地区では、第一回の地区理事会の終了後、地区内の小中学校別懇談会を前峯田会長からの提案で昨年開催しています。テーマは県の懇談会の内容に添い、ほぼ全PTA会長の出席をいただき協議内容を取りまとめ県の懇談会に出席しております。この懇談会ではそれぞれの学校での活動、行事も話し合われ、これから新たに取り組もうとしている活動に対し、先に実施している学校から適切なアドバイスなどもあり大変有意義な情報交換の場となりました。特に初めてPTA会長に選ばれた方からは好評でありました。発言はすべての会長さんからいただき、地区内の現状を確認出来る必要と考えております。

石川地区

会長 本多 守

《浅川町立浅川中学校PTA会長》



石川郡連合PTA研究大会は、平成八年八月十八日、浅川中学校を会場として開催されました。石川地区は、川地区は、郡内五町村の持ち回りで開催され、各町村連Pで当番校を決めております。石川地区は、

石川町を中心に、十から二十kmの等距離に所在し、なだらかな丘陵に恵まれた土地柄のせい、各連P間のまとまりが良い事が特長であり、反面、大会の特長が出せない事が特長といえるかも知れません。そんな中、平成八年の研究大会は、開催地浅川町連Pの協力により、地元の郷土色を強くした催しが企画されました。浅川町には、毎年お盆に、三百余年も継続されている伝統の花火大会があり、大会開会宣言と同時に花火を打ち上げ、目が覚めた参加者も多かった様でした。アトラクションには、花火道具の展示の他、町内の、大字東大畑地域に伝わる「鳥餅」という、青年の掛け合いを交えながらの餅つきを披露し、参加者全員に配ったせい、好評を博した。とかく大会のマンネリ化や、参加意識の高揚を懸念される中、準備する側、参加する側のいずれにも、印象を残す企画だと思えました。側面からではあるが、大会ごとの独自色を出す工夫は、組織運営の向上性に大事な要素である事を実感した次第です。もちろん、研究大会の内容に於いても、大会主題にそって、各分科会ごとに熱心に発表・論議された事は申す迄もなく、紹介するに、快挙にいとまなき、石川地区便りと致します。

地区

いるのでしようか。
 今回は、各地区の連P会長さんにお願
 いし、各地区の様子や、PTA活動に関するご意見、日頃お考えになつておられることをお聞きする機会を持ちました。

情報交換の場として頂ければ幸いです。尚、PTA活動等についてご意見がございましたら、担当者まで原稿をお寄せ下さい。

北会津地区



会長 藤 正 行

《猪苗代町立長瀬小学校PTA会長》

北会津地区PTA連絡協議会は、三町一村の地区の小学校十四校、

中学校六校で組織されており、毎年色々な活動をしており、今年度、初企画として「母親の集い」を実施いたしました。

この会の目的は各単P、各地域の母親が抱える問題を持ち寄り、研修、情報の交換を通して母親会員としての資質の向上を図るということで、各単P一名(女性)の参加協力のもと、計二十名で開催いたしました。

懇談会の運営は全て女性のみで行いました。内容は堅苦しくならないざつぱらな会になればと思ひ、最初一人一人自己紹介をしながらお話しをしていただきました。

時間的にも短かったせいもあり、十分に自分の意見を述べていただけかどうかは疑問ですが、まず女の子だけの集まりというのが、すこぶる画期的であり、女の人(母親)でなければわからない子供とのつながりの中で、生の声や、女性(母親)がPTA活動に参加する上での悩み、各学校のPTA活動の相違なども聞く事ができ大変実のある勉強になった会合だと思われまふ。今回参加された方々の大まかな意見は、どんなにか堅苦しい会かと思つてきたけど女同志母親同志の悩みや考えなどを聞く事が出来本当に参加して良かったということでした。

今後この会を続けたいと思ひます。

大沼地区

会長 松 本 一 彦

《会津高田町立第一中学校PTA会長》

連P活動と所感

私達の連Pは二町一村、十の小学校、四つの中学校で構成されており、比較的小規模な所帯です。活動としては、夏休み中に開催される研究大会が唯一のものであり、内容は県大会の分科会に準じたもので運営されております。また、県大会への参加校はローテーションで決めております。

さて、大会の発表の内容に触れてみますと、「親は忙しい」、「地域での受皿(校外活動の援助)が必要ではないか」、また中学生に関しては、「いじめ、不登校、非行」等の問題が主なものとなっており、都市部、郡部共通のテーマでもあり、古くて新しい課題で論議され

ております。かつては、親睦の意味でソフトボール大会等が開催されておりましたが、単P、各町村連Pの都合で廃止されております。

それでは、今後どんな連Pの活動が望ましいかと考えた時、私自身にも妙案はなく、せめて現状維持ができれば...といったものになつてしまいます。勤めをしながらの活動でしたが、他の親も先生も一杯頑張っている様に感じております。

ひとりの親として子供、学校をみたとき、親は自分の子に責任をもち、先生との対話の中で、健全な成長を願う心構えと手段を取得すべきと思ひます。(PTA活動の中にあると考へます。)

相馬地区

会長 森 繁 夫

《鹿島町立鹿島中学校PTA会長》

生涯教育と国際化を考えた

郡P鹿島大会

平成八年度第四十二回相馬地方PTA研究大会鹿島大会は、去る、

九月七日(土)に鹿島中学校体育館を会場に、郡内より四百余名の会員を集めて開催され、大きな成果をあげて終了しました。今大会



平成8年度第42回 相馬地方PTA研究大会鹿島大会

は「思いやりとひろい心をもつ未来を担う子供を育むPTA活動を創造しよう」を研究主題に掲げ、熱心な研究協議がなされました。今回は鹿島カラーを出して、鹿島町の良さと町P連の結束のすばらしさをPRしたいということで趣向をこらしたようであり、開会前の演奏や、休憩においては鹿島町の歴史ある伝統芸能を町内児童生徒の「手踊り」の披露は、参加者に変喜ばれました。

また、国際化時代を考へて、小高町在住の根本アリソンさんを講師にお迎えし、「日本に住んでみて思うこと」のお話とても好評でした。更には、鹿島町内PTAの協力のすばらしさも絶賛されました。

『おめでとう』 『いっしょまわ』

輝く文部大臣・日本PTA
会長表彰受賞

一、文部大臣表彰

- （県教育庁生涯学習課所管）
- 会津若松市鶴城小学校父母と教師の会
- 二本松市立二本松南小学校父母と教師の会

二、県教育委員会教育・文化関係表彰

- (一) 社会教育関係
 - （功労顕著な団体）
 - 白河市立白河第三小学校父母と教師の会
 - 只見町立只見中学校父母と教師の会
 - (二) へき地教育関係
 - （功績顕著な団体・施設）
 - 天栄村立羽鳥小学校父母と教師の会
 - 鮫川村立西野小学校父母と教師の会
- 三、日本PTA全国協議会会長表彰関係
 - (一) 団体表彰
 - 郡山市立安積第三小学校父母と教師の会
 - 西郷村立米小学校父母と教師の会
 - 鹿島町立真野小学校父母と教師の会

子どもとのふれあいを重視して

《伊達郡保原町立大田小学校PTA》

本校は伊達郡の北東部に位置した純農村地帯にある学校で、子どもたちも素直に育ち、地域の人々の学校への協力は伝統的に極めて高く、学校教育に対する期待にも大きなものがあります。PTAの主な活動としては学校の環境整備・設備充実の協力として奉仕作業や廃品回収やバザーの実施、子どもの健全育成のために夜に開かれる方部懇談会や講師を招聘して行われる講演会の実施、また、地区の公園や駅に花を植える栽培活動や恵まれない子どものために資金を援助するチャリティバザーへの協力、交通安全に関する街頭指導、その他に学年PTA単位のレクリエーション活動を年二回子どもと保護者がふれあいながら実施しています。

平成八年度は交通安全子ども自転車全国大会への出場があり、PTAとして、応援団の派遣など物心両面にわたる全面的な支援を行い、全国第三位入賞という成果にも結びつきました。



また、特色ある活動として、児童の健全育成を目的にスキー宿泊研修を行っています。近くの高湯スキー場においてPTAから指導者を選び、その指導のもとに子どもにスキーを体験させ、保護者とのふれあい活動も取り入れながら、食事の準備など一切をPTAで企画運営し、児童、保護者から高いへん好評を得ている行事です。

子どものふれあいを重視したPTA活動の在り方を探りながら今後とも心豊かな大田の子どもを育成するため、組織をあげて取り組んでいきたいと考えています。

訪問

親と子の触れ合いを大切にしたPTA活動

《郡山市立三和小学校PTA》

郡山市の南西に位置する農村地帯の三穂田町は自然的環境に恵まれ、歴史的な文化財、古くからの伝統文化を大事に継承している地域である。本会の主な事業として会員の研修、校庭・校地の環境整備、会員同士の交流があげられる。その他に、学年PTA行事としての親子登山、

学校行事である収穫祭の援助活動、地域の史跡見学などを通して親子が触れ合い、さらに、地域社会の中で大人たちとの交流を図り、「地域の子どもを地域で育てる」という考えを基本としてPTA活動に取り組んでいる。その中で、PTA会員自身が自分の地域を見直し、子どもたちと一緒に地域の素晴らしさを理解し、地域の文化・歴史・自然を愛する子どもを育成をねらいと



する親子研修活動を行っている。親子研修活動について、教養委員会を中心に具体的に次のような活動を行っている。

まず、本校の学区内の三地域の文化・歴史・自然についての資料や情報の収集を図る。そして、活動の年次計画を立て、地域の人材活用を図り地域を詳しく知る方を親子研修活動の講師としてお願いをしている。活動日については、できるだけ多くの会員の参加を得るように休日に設定している。

このように、親子で地域のよさを見直し、次の世代に伝えていくことの大事さを感じ取ることができ、子どもたちに今問われている「生きる力」を育むことを目的とした親子研修活動を実施している。

- (二) 個人表彰
 - 成田 介 (若松) 副会長
 - 植野勝次 (いわき) 副会長
 - 岩谷敬恒 (福島) 副会長
 - 星 富士雄 (耶麻) 監事
 - 高野金助 (伊達) 監事
 - 菅野昌徳 (相馬) 監事
- 四、東北PTA連絡協議会会長表彰
 - (一) 団体表彰
 - 福島市立平野小学校父母と教師の会
 - 保原町立桃陵中学校父母と教師の会
 - 白沢村立糠澤小学校父母と教師の会
 - 東和町立木幡第一小学校PTA
 - 郡山市立郡山第一中学校父母と教師の会
 - 鏡石町立第一小学校父母と教師の会
 - 大越町立上大越小学校父母と教師の会
 - 会津若松市立永和小学校父母と教師の会
 - 相馬市立磯部中学校父母と教師の会
 - いわき市立藤間中学校父母と教師の会
 - (二) 個人表彰
 - 矢吹清一 (石川) 理事
 - 小沼ヤチ代 (若松) 母親代表
- 五、福島県PTA連合会会長表彰
 - (一) 個人表彰 一〇〇名
 - (二) 団体表彰 三七団体
 - (三) 個人感謝状 二九名

ふれあいを深める 学年PTA行事

《上大越小学校PTA》

大越町は田村郡の中央に位置する人口六千余人の町です。本PTAは、学校と連携を図りながら、会報の発行・奉仕作業・会員研修・バザーの実施・資源回収事業などを通して、会員相互の研修と児童の健全育成を図るための事業を行っています。

本会では教育環境の整備に力を入れ、百周年事業では中庭の噴水、昭和六十年には、学校前の丘陵地を利用した体力作りアスレチック施設を建設し、さらに花壇の作成などに実績を残しています。

また、ここ数年は保護者と児童、教師が共に楽しむ親子教室を実施し、演劇、映画などを親子で鑑賞することににより児童の情操教育に寄与しています。

さらに、平成六年度から、学年PTAの活動をさらに活発にし、親と教師・子どもとのふれあいを深めるために、PTA全体で学年委員会を組織しました。この委員会では、各学年の創意により親子、教師が様々な学年行事を開催し、その成果は、毎年学年PTA行事実践集として各家庭に配布しています。今年度の学年PTA行事は、



親子スポーツ大会、町の自然や人物を再発見するウォークラリーなどが開催されました。日頃、忙しい保護者の皆さんも、この日は子供たちと共に、楽しく活動することができました。

今回の東北P連、県P連、郡P連表彰を励みに、今後も子供たちの健全育成のために、学校教育を側面から支援をしていきたいと考えています。

単P

地域と一体の

ふれあい活動

《川内村立川内第一小学校PTA》

川内一小は、双葉地方の阿武隈山系の中央に位置し、年平均気温は一〇・三度で、特に冬季の温度の厳しさは、

現在、児童数一二七名・P会員数九三名を数える小規模の学校であります。保護者の学校教育への関心は高く、協力的であります。学校と保護者及び地域の連携を図りながら、より良い教育環境の中で、子ども達がのびのびと成長してくることを願って、校地の整備美化をPTAの重点事業として取り上げ、他に、親と子・保護者同士のふれあいを考慮した学年PTA活動親子奉仕作業、親子廃品回収とバザーなどを実施しています。

去る十一月十三日(水)「ふるさと祭り・ふれあい活動」を実施しました。孫達の学習振りを祖父母達が参観し、また地域の高齢者の方々からは、昔の遊び道具作りと、遊び方を教えていただき、苦勞のすえ出来上がった竹トンボや風車などを使った楽しいひと時を過ご



本会は、小規模ながら層の厚い活動を展開し、二十一世紀を担う子どもの育成につとめています。

力作ぞろいの

小中学校新聞コンクール

第三十二回小中学校新聞コンクールは平成八年十二月十二日福島民友新聞社で、福島県PTA連合会、福島民友新聞社主催のもとで審査が行われた。

応募作品は昨年一月より十一月まで各学校で発行されたもので、PTA広報紙八十四部（小六十八中十六）学級・生徒会新聞十八（小七、中十一）が寄せられ、以下の二十三校の入選が決定した。

入賞した学校には賞状と盾が送



られ、優秀賞となったPTA広報紙他八点は「全国小・中学校PTA広報紙コンクール」に出品される。PTA活動の中でも、何かと苦勞の多い広報委員会。その勞に報い、さらに独自性ある創造的な誌面作りに取り組めるよう、来年度はさらに多くの会報が、この新聞コンクールに寄せられることを期待する。

PTA会報の部

- ◆最優秀賞
すずかけ会報(檜葉北小P)
- ◆優秀賞
鶴 翔(鶴城小)
- ◆入選
廣報日新(日新小)
かわかぜ(城西小)
薫だより(薫小)
ひらの(平野小)
はぐるま(桃陵中)
- ◆入選
せいめい(清明小)
わかだ(野田小)
あらい風吹く里(荒井小)
和多利(渡利小)
西陵(西袋一小)
連峰(白河一小)

学校・学級新聞の部

- わごう(大野小)
- たてやま(須釜中)
- PTA会報(原町一中)
- ◆最優秀賞
学校だより「東山」(東山小)
- ◆優秀賞
学校だより「向山」(松陽中)
- 久 慈 川(矢祭中)
- ◆入 選
学校だより「高柴」(浮金中)
- 学年だより(浅川中)
- 稲田小だより(稲田小)



お知らせ

- ★「学校給食(ランチタイム)」に関する調査」推薦校
○会津若松市立城南小学校PTA
(平成八年度全日P名古屋大会で提言)
- 郡山市立開成小学校PTA
- 川内村立川内中学校PTA
(平成九年度東北P秋田大会で提言予定)
- ★平成八年度PTA実践事例集「生きる力と」ボランティア活動」資料提供校
○須賀川市立西袋第二小学校
「花と緑あふれる環境づくり」
～学校と地域を結び～
PTA活動を通して
- 白沢村立糠沢小学校
- 郡山市立三和小学校

ひと・わが校の名物会長



西郷村立米小学校PTA会長
安 治 一 氏

本校会長就任二年めの昨年度は、創立百二十周年の節目に当り、実行委員長とし、数々の記念事業の推進、記念式典、祝賀会等を見事手腕に収めた実績は、会員は勿論、地域の人々にも高く評価された。

ほっとしたつかの間、今年度は、福島県PTA郡山大会で団体表彰を受賞、その一カ月後は、日本PTA全国協議会より団体表彰受賞と二重の榮譽ある会長として輝いたのである。

高校を卒業後、教員を志して実業高校に務めた後、青雲の志を抱き大学へ進学するなど、他人には

仲々真似のできない情熱と信念の持ち主でもある。

現在は、会社の管理指導の、責任ある忙しい立場の身でありながら、見事務めを両立させている。

東京で行われた、日本PTA表彰祝賀会の席上、前文部大臣の島村氏より、「このよるこびを家族地域と分かち合うことは勿論、子どもにも伝え、共に喜び合おう。」との激励のことばに感激、来る二月

自ら研究実践を行っているEM(有機微生物群)の利用についての講師を務めたりするなど、その活躍には、めざましいものがある。正に本校の誇れる名物会長である。

(米小学校校長 金内啓四郎)

第20回 子どもの 災害 事故防止 コンクール

すばらしい
作品
4,004点

第20回子どもの災害事故防止習字・ポスターコンクールの審査は去る二月五〜六日行われ、優秀作品が決まりました。今年も習字二〇四校から三、四六三三点、ポスター九二校から五四一点の応募があり、審査には次の各氏があたりました。

《習字》

- 鈴木 幸子 (蓬萊小教諭)
- 小田 雄 (元野田小教諭)
- 高荒 敏雄 (元小国小校長)
- 《ポスター》
- 力丸 毅 (元福島四中校長)

紙面の都合上、一部しか掲載できませんが、過日、新聞紙上でく



▲橋本 愛 (桃見台小2年)



▲折笠 正幸 (いわき鹿島小)



▲小林 真実 (喜多方一小5年)

ポスター

わしく報道されました。また、四月の「安全互助会報告書」で最優秀賞から佳作まで全入選者氏名をお知らせします。

▼小学校

- ◇最優秀賞 紺野翔志 (保原小一年) 佐藤敏之 (久之浜二小二年)
- 山内祐子 (旭小三年) 持立愛美 (山上小四年) 小林真実 (喜多方一小五年) 小松英正 (福島三小六年)
- ◇優秀賞 渡邊建太 (須賀川二小一年) 武藤久恵 (飯野小二年) 鈴木

習字

▼小学校

- ◇最優秀賞 園部聡美 (江名小一年) 橋本 愛 (桃見台小二年) 國分利佳子 (五箇小) 折笠正幸 (鹿島小) (四年) 作山勝一 (永崎小五年) 御代康喜 (小名浜東小六年)
- ◇優秀賞 《一年》 鹿又美穂 (美山小) 大平有希子 (平三小) 吉村健吾 (郷ヶ丘小) 《二年》 志賀友美 (泉北小) 新井田憩 (行仁小) 佐藤祐介 (蓬萊小) 《三年》 根本会夏 (永井野小) 安斎早仁 (白河四小) 佐藤真矢 (旭田小) 伊藤さやか (行健二小) 紺野和也 (大笹生小) 《四年》 鈴木玲子 (永崎小) 遠藤真理 (鏡石小) 穂積昇平 (謙教小) 長谷川祐介 (松長小) 和深奈津美 (江名小) 《五年》 小林直樹 (行仁小) 桑島麻衣 (小島小) 深谷のぞみ (五箇小) 望月尚子 (西袋一小) 三瓶萌子 (謙教小) 《六年》 作山明子 (永崎小) 片野紘次 (棚倉小) 平館祐佳 (二本松北小) 鈴木久美子 (五箇小) 根本奈津美 (永井野小)

▼中学校

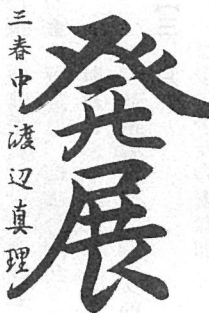
- ◇最優秀賞 工藤玲奈 (稲田中二年)
- ◇優秀賞 大竹 忍 (湯本中一年)

木洋平 (鹿島小相三年) 大橋千恵 (鏡石一小四年) 金田拓也 (赤沢小五年) 鈴木康彦 (鹿島小相六年)



御代 康喜

▲御代 康喜 (小名浜東小6年)



三春中 渡辺真理

▲渡辺 真理 (三春中2年)



▲工藤 玲奈 (稲田中2年)

りは、基礎や基本にじっくりと取り組み制作に当たった様子が、多くの作品に表れていた。大変好ましい傾向である。残念であったことは、校名の記入もれがあった作品が目立ったこと、校名の大きさに作品全体のバランスに欠くものがあったことである。

▼中学校

- ◇最優秀賞 沼田圭子 (小名浜一中一年) 渡辺真理 (三春中二年) 緑川晴美 (矢祭中三年)
- ◇優秀賞 大埜聡美 (東北中一年) 安田増美 (稲田中二年) 佐原 恵 (西袋中三年)

〔審査評から〕

今年度も習字・ポスター共に力作が数多く寄せられ、各審査員は強い感動を受けながら審査に当たっていた。習字について― 課題を一筋に練習したというよ

今年度は、習字もポスターも昨年より応募が少なく残念であった。多くの学校の応募を期待したい。

―ポスターについて―

ポスターの意義をよく理解し、自分なりに創意工夫した作品が多く見られた。特に、文字と絵の色調やバランスにすぐれたものが目立った。今後は、文字(標語)そのものの検討とそれにマッチした絵(図案)についていっそうの工夫を望みたい。災害事故防止のポスター募集にじめ防止の作品も見られ心を痛めた。

みんなの願い、災害事故防止

学ぶ機会を積極的に取り入れて!

今年度で十七回を数えた県母親リーダーセミナーは、浜通りでは中央に位置する檜葉コミュニティセンターで開催されました。北は新地、南は勿来まで広い範囲から集まった四十八名の皆さんが七グループに別れて、午前一回午後二回とテーマを変えて、バズ・セッションが行われました。初対面の方々と一言添えての自己紹介を通して、少しずつ緊張がほぐれ話し合う楽しさと充実感を味わうことが出来た一日でした。人は何故学ぶのか?という学習の必要性から森口先生の講義は始まり、PTAにおける学習と方法等についてお話しされました。県内四ヶ所で開催されるにあたり、家庭の理解、支援、役割分担の固定化意識の根強さが指摘されまし



いわき市立平三中PTA(副会長 佐藤 暁美)

た。母親の立場、視点で活動出来る、また受け入れる体制作りもこれからの組織構成上の課題の一つであると思います。そのために、多くのことを学ぶ機会が必要であると思います。

◆増える学童賠償事故◆

— 県PTA安全互助会から —

平成8年の1年間に安全互助会の補償給付対象となった傷害事故発生件数は、2,567件、死亡6件。賠償事故請求件数は65件と昨年より32件も増えた。

Table with 3 columns: 学年 (Grade), 賠償事故状況 (Accident Status), 給付額 (Payment Amount). It lists various incidents such as falls during school activities, car accidents, and property damage, along with their respective compensation amounts.

※ 最高限度額 100万円 免責1,000円
※ 学童賠償は、学校管理下の日常生活上の事故が対象
※ PTA賠償は、PTA主催行事に限定で学校、町内会、体育協会等との共催行事は不可

■平成九年度 ■PTA事業・諸会議一覧

- Calendar of events for the fiscal year 1997, including PTA business meetings, seminars, and conferences. Items are listed by month from April to December, such as 'April: PTA Business Meeting' and 'December: PTA Business Meeting'.